

桐沢菜美の

ズッコケ

『タイ』

旅行

記

メディア表現コースの専攻科生桐沢菜美さんが、2008年の夏休みに友人とタイのバンコクに三泊五日の旅行に行ってきました。放送コードすれすれの、今だから笑える彼女のズッコケ旅日記を、どうぞご覧あれ。

9月8日

前は、どうも眠れなくて30分しか寝ていない自分、あれよあれよと言う間にリムジンバスに乗って広島空港へ。空港でM氏と合流し、出国。機内食のタイ料理カレー的な何かは美味だったが、何故か不安になる味だった。そしてなんとバンコク着。

空港で待っていたツアー会社のおっさん（タイ人）に連れられ、ワゴン車に乗せられる。まさかこのツアー、自分たちだけとは思ってなかったのも、ものすごく不安にかられる。だって、日本人の現地係員が待つてるものだからって。日本企業の看板が並ぶタイの景色を窓から眺めながら、早くも後悔の念、そして「ごめんよ、おとん、おかん」と、心の中で呟いた…もの、無事にホテル着。ツアーのおっさん、ホンマすみません、バリバリ疑ってました。このホテルは、酷評の多さが定評の「ある意味高級スナック」だが、部屋は意外ととてもいいし、サービスも良かった。とりあえず、幾分かのお金を持ってその辺をうろつくことにした。



機内食の段階からすでに、いやが上にも盛り上がる旅情

バンコクに着いたぞー



突然のスクールで水浸しのプラトゥナム市場だが、地元の人達は慣れたもの

バンコクは古い建物が多い。古き故の伝統とかそんなのではなく、廢墟予備軍がそこ中にある。それでちゃんと人が住んでいるのだから、やはりバンコクは半端無い。日本では観られない混沌とした空間に、思わずシャツターを切る。中華街を一通り観てホテルに戻り、ロビーで今までうろついていた道の確認をしていたら、岡山から来たらしい兄ちゃんに話しかけられ、しばし雑談。エレベーターの中で怪しい人に接近・密着されたこと。男の一人旅は危ないよ！

夜は、セブンイレブンでサンドイッチ、生茶、ポテチを購入。生茶…甘ッ！タイの生茶は抹茶ミルクの味がした。だけどこれ、ちゃんとココアで作られてる…。この日はだらだらして風呂に入ってから就寝。あれ？天井から水もれしてるんですけど…。

9月9日

朝9時頃起床。ちなみに日本は11時です（時差的な意味で）。タイの朝食は結構食べやすい…と思いきや、飲み物がウツと来るほど甘い。しかし食べ物には割と日本人好みの味だと思う。ベーコンも、イタリアの時みたいに殺人的な濃さではない。て言うか野菜食えよ自分。

この日は変なTシャツ探しの旅。徒歩でショッピングセンターや市場を回るのだ。ワットポー？アユタヤ遺跡？そんなものよりB級スナックだ馬鹿者！！ホテルから40分ほど歩いて、大型商業施設が立ち並ぶエリアに到着。そうそう、バンコクって大都会なんですよ！その中のM&Kと言ったショッピングモールで変なTを探します。あります。おかしな日本語のTシャツが！そんなものばかり探していたさな気がする。あとはお土産をちよっと買って、デパート伊勢丹に移動。伊勢丹は日本のデパートだけに、そこらに日本語が溢れかえっている。スタッフも日本語が使えるので安心だ。伊勢丹の紀伊国屋とT語の日本語ガイドを購入。

そして第二の目的地、プラトゥナム市場！で変なTを探す。我々は建物の中に入り、変なTを探し始めた。と…そこはスクール（にわか雨）が！タイは現在雨季で、一時的な大雨がほぼ毎日降る。建物の中に居たので直接雨に当たれる事は無かったが、なんと浸水してしまい、身動きが取れなくなりました。歩道に沿って露天や屋



旅の醍醐味は、

やっぱり市場ですよ



人々のエネルギーな生活に紛れ込んでみる

美しいチャオプラヤー川の船着場



台が立ち並び、観光客と地元客がみくちやになりにながら、それぞれショッピングを楽しんで(?)いる。地元人は裸足で水溜りをジャブジャブ歩いてた。店も一旦営業中断。しかしこの人たちは、むしろ楽しんでるのにも見える。それにしてもリアな体験したな。

雨は1時間ほどで止み、水溜りを気合でよけて外に脱出。夕飯も食べて帰ろうって事になったので、MBKに戻る。ここで食べようかワラワラしていたら、日本語メニューのある店を発見。普通のレストランかな?と思って入ったら、しゃぶしゃぶの店っぽい。「ああ、これがタイスキってやつか!」偶然にも、タイ名物「タイスキ」をいただく事に成功。野菜も美味いんだこれが。2人分で300バーツちょっとだったかな。日本円だと900円。ディナーなのにこれは安いぞ!。徒歩でホテルに戻り、タイのドラマを見て就寝。タイ製ドラマはB級男ブロンである。BGMがM-100だからな。ところで、今回の旅行ですごい事を見つけてしまった。ペーコンにメイプルシロップかけるとガチで美味い。これは是非試して欲しい。

9月10日

この日はあらかじめ、ピンチになったら忍法使おうぜ!と話していた。そしてホテルを出る私たち。歩道に出るや否や、タクシーのしつこい勧誘に捕まってしまった。普段は適当に無視してあしらう所だが、忍法を試したいという欲にたかれつつ、おっさんの目の前で忍法を使ってしまった。おっさんはかなりうんた。うん、忍法の威力はタイランドでも有効だ。【編者注:意味不明】

それから西方面に歩き、泥棒市場まで。盗品が売られていたのが名前の由来だが、現在は電化製品や何かの部品、DVDのコピーが並ぶ。いわばタイのアキバである。まあそんな訳で、変な物が無いかワロワロしてみる。市場のメインとなる建物の中は迷路のようだった。ここではイカしたタイ語のキーボードとタイ語ステッカーを購入。そしてワットポーは素通りして、チャオプラヤー川の船着場へ。バンコクは船の交通機関も充実している。ワットポーから少し北にある船着場まで、エクスプレスボートで行くつもりが間違えてたの渡し舟に乗ってしまった。どおりで安いわけだ。(10円)まあ、どっちにしろ目的地は川の向こう側だったので、そこから目的地の「シリラート病院」まで歩く事に。

そして、今度こそちゃんとしたエクスプレスボートに乗って切符がまたカッコイイんだこれが、ワットポーまで。この切符は持って帰れます。そういえばワットポーこそタイの目玉だというのに、自分らはB級っぽいところしか行っていない。

最後の寝泊りだからなのが、タオルで作られたソウさんが!これがタイランドヌクモリナイが!壊すのが勿体無いので、ベッドの脇に置いときました。この日見たドラマはなかなか面白かった。主人公に意地悪して最後に酷い目に遭う娘に萌えた。

9月11日

最後の朝食を食って(このチャールハンが美味しいので何杯も食った、チェックアウトして荷物を預けて地下鉄でGO!)。実はバンコクで列車に乗るのは初めてだ。早いし安いし使いやすい。それに人も少ないので非常に快適だった。スクムウィット駅で降りて、タイムスクエアという商業施設とオフィスが一緒になった建物へ向かう。ここに何かあるのかと言つと、バンコク唯一のメイド喫茶だ。タイ娘がカタコトの日本語で「お帰りなさいませご主人様」と言い、タイ娘がオムライスにケチャップで絵を描いてくれるのだ。こゝこれは萌えいじゃないか!しかしどこを探しても無い。ま、まさか潰れたのか?と思い、ガイドブックを確認したが、間違いない。この建物の3階なのだ。どこやら潰れてしまったらしい。

気を取り直し、次なるスポットへ。前日の夜の事だが、メイド喫茶の付近に食べる所は無いかな、と地図を眺めていたところ、「Cabbage & Cornish」の文字が。!?!?!と(噴いて)詳細を見てみると、タイの貧困撲滅のため、NGO団体が経営しているレストランらしい。名前はよく見てもキモモだが、きちんとしたタイ料理のお店だ。そんな訳で、すぐ近くにあるこの店で食事をすることに。南国風のおしゃれなレストランだが、いきなり度肝を抜かれる放送禁止オブジェが次々と目に飛び込んでくる。グズズコーナも設けられてあり、誤解を招くような言い方になるがM氏はノリノリだった。あ、自分か。実は、今回の旅行できちんとしたタイ料理を食べたのは、この店が最初で最後である。うん、どれも本当に美味い!腹がいっぱいになった所でお会計。お会計後は、レジのおねーさんにゴムゴムを頂きました。で、いつ使うんだよ。



「極楽鳥俯瞰」

メイド喫茶の件で時間も余ったので、一昨日のショッピングセンターが立ち並ぶ地区まで行ってみる。スカイトレインで移動（広島で言うアストラムライン）。人は多かったが、快適な空の旅だ。伊勢丹で買い物して、タイシルクで有名なジム・トンプソンのカフェでタイトロビカルフルーツシークを頂く。M氏はライチシーク…あれ？今までずっとB級B級って言ってたのに、マト主な観光してね？それからZENと言うショッピングセンターでうろつく。昨日は周ってない所だけあって、見落としていた店が沢山あった。手作リキルトのオサレな店（変革を着） 買い物したり、日本の漫画が沢山置いてあるタクシヨップ（↑ここ重要）でタイ語で書いてある漫画を眺めなくていいに買いたせに買いたせたり、つまり何が言いたいかって言うと、パンコクに行く機会があればZENは是非行ってみたいという事だ。

外に出ると、降っていた雨も小降りになり（実は雨が降っていたのだ）タイ名物の三輪タクシー「トゥクトゥク」に乗って帰ることにした。料金は交渉制で、この手の乗り物はボッタクリが多いのだが2回目に捕まえたおにーさんが美に良心的で、きちんとホテルまで連れて行ってくれた。ホテルでだらんとすると、ツアーのおっさんが迎えに来てくれたので、そのままおっさんのトヨタ車で空港まで移動。無事に出国も済ませ、航空会社のラウンジでネットをして15分の制限付きだったけど、飛行機に乗り込む。ちなみに待合室は冷房が効きすぎて死ぬかと思つた。

そんなこんなで広島空港着。M氏と別れ、広島駅行きのバスを50分ほど待ちながら、スリッケースをイスにしてこれ書いている自分、なんだかカコイゼ…。



「黄昏のチャオプラーヤ」



เบบบุญป๋น

โทร. (02) 223-8674

十字街

ห้าม
จอด

